

～～第8230回～～

白峰三山

～H29. 7. 20-22～

7月20日：安倍川駅を2台の車に9人が分乗して奈良田に向けて出発。奈良田から広河原行きのバスに乗り終点で下車をする。入念なストレッチを済ませてから登山開始。期待と不安が入り混じる中いよいよ念願の白峰三山へ。野呂川にかかる吊り橋を渡って登山道に入る。初めの分岐を右にとり、大樺沢と分かれて樹林帯の中をただただ登る。林の中で昼食をすませて今日の泊りの白根御池小屋を目指して歩く。早めに小屋に到着し皆で乾杯。小屋は新しくきれいだった。

天候：晴れ

コースタイム：安倍川 620＝奈良田 830-905＝広河原 950-1010…水平道 1150…御池小屋 1340(泊)

記録：静岡西支部 H. K

7月21日：朝食は、4:30に摂った。白根御池小屋の外へ出ると、天気は快晴で、風もない。朝日を浴びた北岳の山頂付近がよく見えた。小屋の近くにある白根御池(2230m)へ行ってみると、池面に逆さ北岳が映っていた。小屋の前で、ストレッチを行って出発した。白根御池の所で、分岐を右(草すべり方面)へ行き、草原の中の急登を登る。シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ・ミヤマハナシノブ等が咲いていた。朝日が直接当たり暑い。樹林帯に入り、2730m付近で森林限界になった。ここからは、シナノキンバイを中心とした黄色のお花畑が斜面いっぱい広がっていた。お花畑の中を登り、小太郎山分岐点(2860m)に着く。ここから南への稜線歩きが始まる。西から北、東方面にかけて、中央アルプス・仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山・富士山がよく見えた。この後の稜線の周りには、所々で、ハクサンイチゲを中心に、ミヤマオダマキ・ミヤマシオガマ・チョウノスケソウ・イワベンケイ・コイワカガミ・キバナシャクナゲ等が咲いていた。ネットの情報では、この時期でも、キタダケソウが咲いていたようだが、確認できなかった。肩ノ小屋(3010m)の先の急登を登り、北岳山頂手前までくると、南側の展望が開けた。間ノ岳、農鳥岳へ続く雄大な稜線が見えた。奥には塩見岳も見えた。北岳(3192.5m)に着いた頃から、東側からガスが発生し始めていた。北岳山頂からの富士山は、雲海の上に山頂付近がころうじて見える程度になっていた。北岳を下ってからは、高低差が少ない稜線を歩く。北岳山荘(2880m)にあったベンチで昼食休憩をとり、ストレッチをしてから間ノ岳へ向かった。北岳山荘では、蛇口から無料で水を補給できた。この頃から西側からもガスが発生して、中白峰山(3055m)、間ノ岳(3189.5m)では、周りは真っ白で、展望はなくなっていた。間ノ岳を下りると、途中から赤い屋根の農鳥小屋(2800m)が見えた。白根御池小屋から農鳥小屋までは、10kmの距離であった。15:00を過ぎると「遅い」と管理人に叱られる心配があったが、逆に、下山後にストレッチをやったことで褒められた。その後、「小屋内のランプはまだ点けるな」、「ポットのお湯

をペットボトルに入れるな」、「ハイマツの上にこしかけるな」、「水は、原則、遅くなる前に水場(往復 30 分)へ採りに行け」等の細かい注意を受けた。水場へ行くのは鹿避けの効果も見込んでいるらしい。農鳥小屋の水場を利用しない場合は、北岳山荘で、多めに水を補給したほうがよいかもしい。管理人のほかに、若い女性が 1 名手伝っていた。また、4 匹の甲斐犬が飼われていた。ワングル(9 人)には、小屋 1 軒が割り当てられ、スペースはあった。一人に薄い敷布団と毛布が 2、3 枚程度割り当てられていた。食事は、ごはん、汁物、共同で漬物と梅干し、朝食には、生卵がついた。トイレは長方形の穴が開いているだけの作りで、垂れ流し状態だった。夕食の 17:30 まで、外で軽く反省会をした。夕食後に外へ出ると、ガスがなくなっていた。西日を浴びた農鳥岳と間ノ岳を見てから就寝した。甲斐犬が夜中に、時々吠えていた。

天候：晴後霧

コースタイム：白根御池小屋 529…小太郎山分岐点 729-38…肩ノ小屋 808-25…両俣分岐点 846…北岳 911-36…吊尾根分岐点 1000…北岳山荘 1050-1137…中白峰山 1216-25…間ノ岳 1345-58…農鳥小屋 1508

記録：静岡西支部 Y. K

7 月 22 日：農鳥小屋の朝は犬の鳴き声で来た。宿泊棟が二棟ありその平屋一棟(20 畳ほど)を私達 9 名で独占したようになった、この小屋には自家発電が無くて、灯りは LED のランタンである。薄暗い中で出発の準備をしていると 4:40 には朝食の準備が整い、食堂の棟に行く、朝食は味噌汁と佃煮の盛り合わせ、昨日の白根御池小屋と比較すると今と昔の差、30 年前の話にでてくる山小屋だ。北アルプスの山小屋が近代化を進めて山上のホテル化をしているのを横目でみて、山小屋とはこうでなくてはと言いたげな、農鳥小屋の主人のコンセプトかも知れない。食事を済ませて小屋の前の広場でストレッチを念入りにやって、今日の 9 時間の歩工程に備える、小屋の南に西農鳥岳がくっきりと、せまる。青空が雲の間にありこれなら天気は上等だ、北には昨日歩いた峰々がよく見える、小屋から西農鳥岳まで 250m の高低差を登り、岩礫をこえての尾根を歩き農鳥岳へと辿る、3 日目の登りはここまで、ここから下る一方となる。尾根の窪みに雪渓が残り、小さな雪渓を 2 か所ほど越えた、キバナシャクナゲの真新しい花の群落をたのしみ砂礫の尾根を辿り大門沢下降点に着いた。尾根から別れ 30 分も下るとダケカンバの林に入る、太陽を遮る林は涼しさを感じられる、しかし急な下りと、段差が大きく体のやわらかさと体力を要求される下りだ。沢の音が大きくなると大門沢小屋に着いた。水が豊富な小屋でシャワーまで備えられている。ここで昼食を取った。大門沢小屋からは傾斜もゆるくなり、沢を丸太の橋で渡り、深い谷を左に見てトラバースするように下ると発電所の取水口の吊り橋に着く。ここまで下ると登山口は近い、小屋を出て 9 時間となる、砂防ダム下り登山口だ、ここからはアスファルトの道を歩き広河内橋を渡って駐車場に着いた。今日一日の行動時間 10:20、農鳥岳から奈良田まで高低差 2220m の下りであった。奈良田の温泉で汗を流し静岡には 19:00 に着いた。花の素晴らしい時期に

合えて、楽しい山であった。

参加者：9名（静岡西7、焼津1、磐田1）

天候：晴れ時々曇り一時雨

地図：仙丈ヶ岳・鳳凰山・間ノ岳・夜叉神峠

コースタイム：農鳥小屋 510…西農鳥岳 615…農鳥岳 710…大門沢下降点 815…大門沢小屋 1120-50…発電所取水口 1410…広河内橋 1500…奈良田駐車場 1525-40＝奈良田温泉 1550-1640＝静岡 1900

記録：静岡西支部 福永



北岳下降にて北岳山荘、間ノ岳を望む



草スベリのお花畑